

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

先生の説明を聞いて「分かった」と思ったのに、いざ問題を解こうとすると、手が止まってしま
う。そんな経験はないでしょうか。「分かる」と「できる」ことの間には、思っているよりも
大きなへだたりがあります。

けん玉のわざを例に考えてみましょう。上手な人がやるのを見て、「ひざを使って、玉をまっす
ぐ上げればいい」とこつを聞けば、頭では分かった気になります。けれども、実際にやってみると、
玉は思った方向に上がらず、なかなか皿にのりません。こつを知っていることと、体がそのとおり
に動くことは、別のことなのです。

では、「分かった」を「できる」に変えるには、どうすればよいのでしょうか。大切なのは、自
分でやってみて、うまくいかなかったところをたしかめることです。どこでつまづいたのが分か
ると、次にどこを直せばよいかが見えてきます。これをくり返すうちに、少しずつできるようになっ
ていくのです。

勉強も同じです。説明を聞いて分かったと思ったら、何も見ずに、自分で問題を解いてみましょ
う。解けなかったところこそ、まだ本当には分かっていなかったところなのです。

「分かった」は、ゴールではなく、スタートです。自分の手や体を使ってためしてみることで、
はじめて、知っていることが自分の力になるのです。

(この問題のための書き下ろし)

こ	体
と	が
	そ
	の
	と
	お
	り
	に
	動
	く

問一 けん玉の例で、筆者は「こつを知っていること」と何が別のことだと言っていますか。本文から十五
字までで書きぬきましょう。

問二 筆者は、「分かった」を「できる」に変えるために、何が大切だと言っていますか。いちばんあうも
のを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 自分でやってみて、うまくいかなかったところをたしかめること。

イ 上手な人のやり方を、何回も見ること。

ウ こつを書いた本を、たくさん読むこと。

ア

問三 「『分かった』は、ゴールではなく、スタートです」とありますが、これはどういうことですか。四
十五字までで書きましょう。

う	に	で	な	分
こ	す	た	ら	か
と	る	め	ず	っ
。	必	し	、	た
	要	て	そ	だ
	が	で	こ	け
	あ	き	か	で
	る	る	ら	は
	と	よ	自	力
	い	う	分	に

問四 「勉強も同じです」とありますが、何が同じなのです。いちばんあうものを、ア～ウから一つえら
びましょう。

ア けん玉と同じように、勉強も体を動かしてするものだということ。

イ 分かった気になっても、自分でやってみないと、できるかどうか分からないということ。

ウ 勉強も、上手な人のやり方を見るのがいちばんだということ。

イ

【小5】国語 文章問題 説明文 3 答えと解説

問一（二十五点） 答え：体がそのとおりに動くこと

解説：二つ目のまとまりの最後の文から。

問二（二十五点） 答え：ア

解説：三つ目のまとまりの「大切なのは、自分でやってみて、うまくいかなかったところをたしかめることです」から。イ・ウは見たり読んだりするだけで、本文の「分かった気になる」に当たる。

問三（二十五点） 答えの例：分かっただけでは力にならず、そこから自分でためてできるようにする必要があるということ。

解説：最後のまとまりから。「分かっただけでは力にならない」と「自分でためす」ことの二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

- ①分かったと思っただけでは、できる（自分の力になる）とはかぎらない
- ②そこから自分でやってみる（ためす）ことが必要

問四（二十五点） 答え：イ

解説：四つ目のまとまりで、けん玉と同じく「自分で問題を解いてみる」ことで、本当に分かっているかがたしかめられると言っている。アは言いすぎ。ウは本文に書いていない。